

**基本目標1 働く場づくりへの挑戦**

**1 基本的方向及び数値目標の実績**

基本的方向	数値目標	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	%														
								20	40	60	80	100	120									
市の活力づくりに向け、多くの人が市内で働くことができる環境を整備し、安心して暮らせるまちづくりにつなげていくことが必要です。とりわけ、若い世代(20～29歳)の市内での就職を支援することが重要です。 そのため、企業への支援や新たな誘致、農業経営の強化や担い手確保、若い世代や女性、障害者等が働きやすい環境整備などを進め、さらなる働く場づくりに挑戦します。	市内就業者数	人	47,762 (H22)	維持 (H32)	H22	47,762	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					H27	44,534	93.2%	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
					H32																	

※国勢調査の数値のため、目標値をH32に修正する

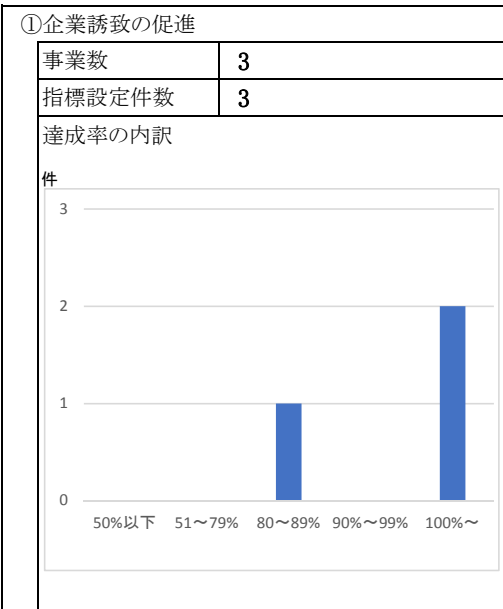
**2 各施策の進捗状況**

**施策1 企業誘致をはじめとした働く場の創出**

重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	%															
							20	40	60	80	100	120										
平成27年4月以降の市内工業団地等への企業立地・操業開始件数(累計) (※農業参入を含む)	件	— (H26)	20 (H31)	H27	7	35.0%	■	■	■	■												
				H28	9	45.0%	■	■	■	■	■											
				H29																		
				H30																		
				H31																		

※H28の達成状況を踏まえるとともに、農業参入企業も合算することとし、H31の目標値を5件から20件に上方修正

**3 指標の達成状況**



**4 施策の総括**

- ・H31の目標達成に向け、工業団地や農業などへの企業誘致・企業参入の支援を進めてきており、働く場の確保に努めている。
- ・施策を構成する各事業についても、80%以上の指標達成率となっている。
- ・誘致した企業に対し、市内雇用の拡大を促進するための取組を実施し、53人の市内居住者の創出につながった。

**5 今後の方向性**

- ・引き続き、市内工業団地への企業誘致を推進する。
- ・平成32年12月に予定する(仮称)本郷地区産業団地の分譲開始を見据え、本市経済に波及効果の高い企業の誘致を進める。
- ・農業分野においても引き続き、参入企業の誘致を進める。

**6 まちづくり戦略検討会議の意見**

引き続き、現状の取組を推進すべき

○ 改善・見直しを行うべき

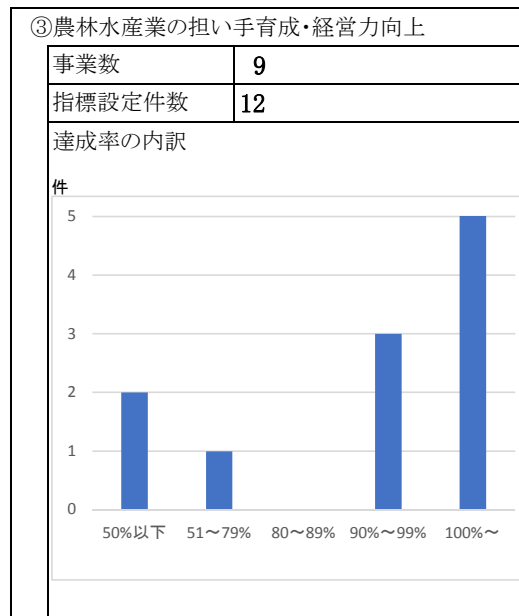
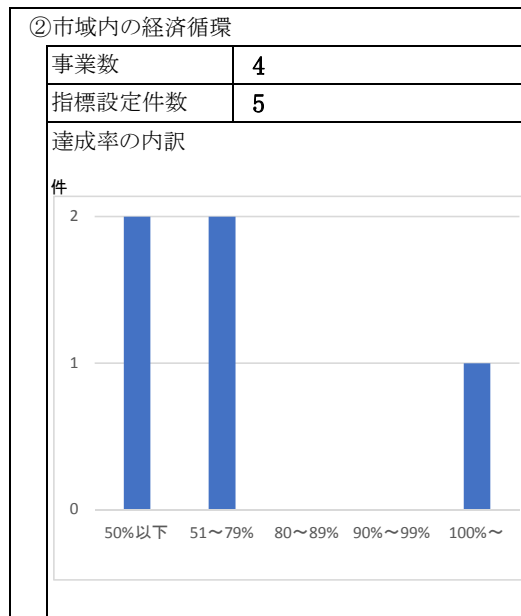
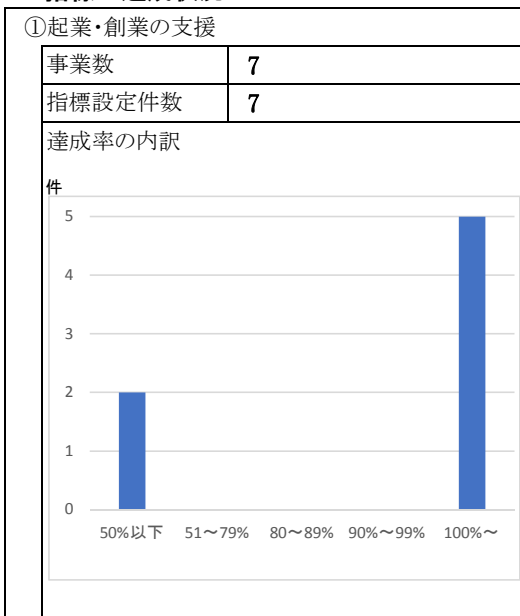
- ・KPIの進捗状況は良い流れであると言える。
- ・企業誘致については、企業ニーズに沿った事業を推進すべきであるが、特に、地元雇用者(働き手)の確保や住む場所の確保は重点的に取り組むべき。
- ・市内の既存事業所、特に大手企業に関する事業も検討すべき。
- ・製造業だけの誘致でよいのか。国が進める本社機能の移転ともあわせ、都会からの誘致に係る事業を盛り込むべき。
- ・どの業種を伸ばしたいのか、どの産業を誘致するのかなど市としてのビジョンを持つべき。
- ・数値目標である「市内就業者数の維持」について、構成する3つの施策との相関や有効性にやや疑問がある。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート②

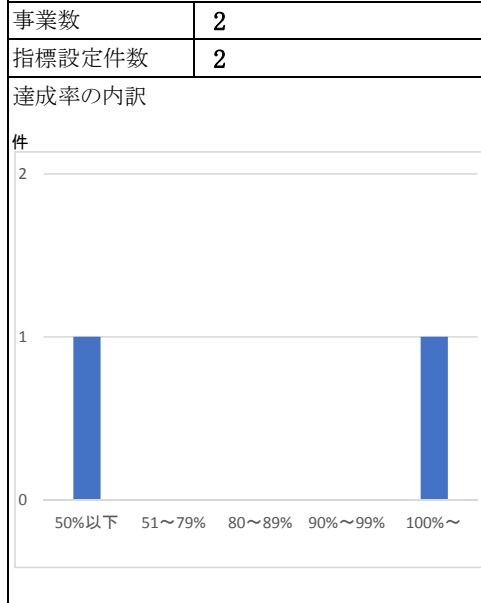
## 2 各施策の進捗状況

施策2 地場産業の育成													(%)	
重要業績評価指標(KPI)		単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120	
市内総生産 <small>※市内総生産:1年間に市内で行われた各経済活動部門(製造業, 卸売・小売業, 農林水産業, 金融・保険業など)の生産活動によって新たに生み出された付加価値額</small>		百万円	386,350 (H24)	上昇 (H31)	H25	342,584	88.7%	[Progress bar for H25: 88.7%]						
					H26	376,818	97.5%	[Progress bar for H26: 97.5%]						
					H27	394,544	102.1%	[Progress bar for H27: 102.1%]						
					H28			[Progress bar for H28: 0%]						
					H29			[Progress bar for H29: 0%]						
					H30			[Progress bar for H30: 0%]						
					H31			[Progress bar for H31: 0%]						

## 3 指標の達成状況



④農林水産物の6次産業化の推進



4 施策の総括

・施策を構成する各事業について、指標の達成率が50%を下回っているものが7件あり、達成度の低い事業を重点的に進めることが必要な状況となっている。  
とりわけ、「市域内の経済循環」に関する取組について、達成度が低い状況となっている。  
一方、農林水産業関係については、比較的達成度が高い状況となっている。

・起業・創業の支援に関して、延べ113件の創業者数の創出に加え、9件の新規出店支援及び4件の店舗改装につなげることができた。

5 今後の方向性

・市内総生産の上昇に向け、商業や農業、水産業、林業など幅広い分野での生産活動を促進する取組を引き続き実施する。

・「市域内の経済循環」に関する取組について、重点的な取組を検討する。

・引き続き、農林水産業の取組を進めることとし、なかでも6次産業化の推進の観点から、米粉を活用した取組について拡充を検討している。

6 まちづくり戦略検討会議の意見

	引き続き、現状の取組を推進すべき
○	改善・見直しを行うべき

・地域ポイント活用事業や6次産業化支援事業など、「市域内の経済循環」に関する取組について重点化させるべき。

・起業・創業、まちの活性化、農業を中心とした6次産業化など、分野のバランスは取れているが、総花的にやっても強くなるはない。各分野で特に何をやるのかについて、ビジョンや目標を持った、集中と選択した取組を行うべき。

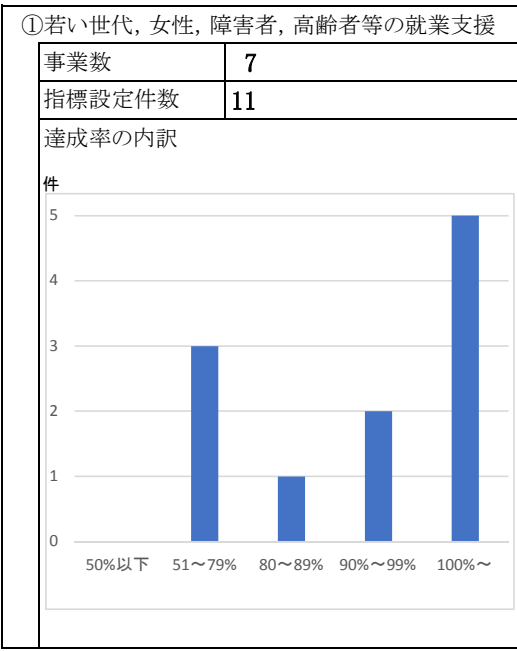
・既存の中小企業が生産性を上昇させることを支援する取組や市内大手企業に関する事業も検討すべき。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート③

## 2 各施策の進捗状況

施策3	就業しやすい環境整備						%								
重要業績評価指標(KPI)				単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120
15歳以上の就業率	%	56.2 (H22)	60 (H32)	H22	56.2	—									
				H27	52.6	87.7%									
				H31											
重要業績評価指標(KPI)				単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120
女性(25～39歳)の就業率	%	64.3 (H22)	70 (H32)	H22	64.3	—									
				H27	69.5	99.3%									
				H31											

## 3 指標の達成状況



## 4 施策の総括

- ・施策のKPIである「15歳以上の就業率」を高める必要がある状況となっている。一方で、女性(25～39歳)の就業率については、目標値に向け順調に推移している。
- ・施策を構成する各事業について、7割以上の事業が、指標の達成状況80%以上となっており、比較的順調に実施できている。  
とりわけ、介護職員就労支援事業及び生涯活躍のまち推進事業で達成度が高くなっている。  
一方、女性の活躍支援事業や障害者就労支援事業について、達成度が低くなっている。

## 5 今後の方向性

- ・施策を構成する各事業について、引き続き、継続した取組を実施していくとともに、達成度が低いものを中心に重点的な取組を検討する。
- ・とりわけ、「女性の活躍支援事業」については、施策のKPIである女性(25～39歳)の就業率に直結する取組であると考えられることから、重点的な取組を検討する。
- ・また、若い世代への就業支援はもとより、障害者や高齢者に対しても積極的に就業支援を行うことにより、施策のKPIである「15歳以上の就業率」の上昇をめざす。

## 6 まちづくり戦略検討会議の意見

引き続き、現状の取組を推進すべき

○ 改善・見直しを行うべき

- ・若い世代にかかる事業が少ないと感じる。高卒、大卒、第二新卒、大学中退者、外国人を含めた若い層に利く施策を考えるべき。
- ・女性の就業率向上に向けては、事業所内保育所や土日の保育所の開設支援などの取組も有効であると考えられる。
- ・外国人労働者を増やしていくという観点での事業があっても良いのではないか。
- ・KPIについて、女性の復職までを考えると、年齢設定は必要ないのではないか。
- ・ハローワークへ行かなくても求人情報が得られる仕組みを検討すべき。市のホームページに掲載してはどうか。
- ・健康寿命を伸ばすという意味では、高齢者の就労も重要。
- ・女性の活躍支援に向けては、セミナーも重要であるが、実際に女性管理職を推進している企業と連携して取組を検討するのはどうか。
- ・KPIは実人数も示したほうが現状を理解しやすい
- ・障害者、高齢者の対応もさらに充実させる必要がある、活き活きと働ける場の創出と提供を強化すべき。
- ・保育園・高齢者介護施設等の充実を検討すべき。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート④

## 基本目標2 交流人口拡大への挑戦

### 1 基本的方向及び数値目標の実績

(%)

基本的方向	数値目標	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率									
								20	40	60	80	100	120			
市の活力づくりに向け、観光を新たな産業の柱として位置づけ、交流人口の拡大をきっかけに、地域産業の振興や雇用の確保などにつなげていく必要があります。 そのため、三原城築城450年をきっかけとした観光のまちづくり、歴史や文化、食などの資源を活用した誘客体制を整備し、交流人口拡大に挑戦します。	市外からの年間観光客数	万人	167 (H24)	250 (H31)	H24	167	66.8%									
					H25	171	68.4%									
					H26	151	60.4%									
					H27	172	68.8%									
					H28	180	72.0%									
					H29											
					H30											
H31																

### 2 各施策の進捗状況

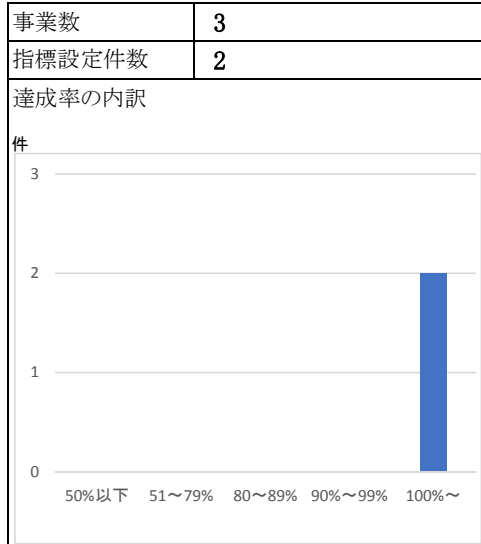
#### 施策1 築城450年を契機とした観光誘客

(%)

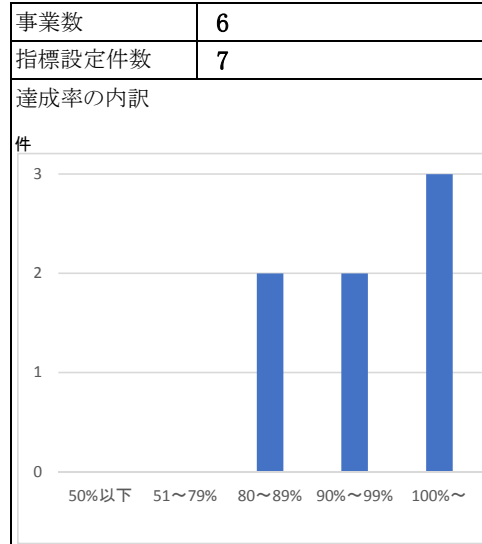
重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率								
							20	40	60	80	100	120		
県内在住者のうち、三原市の主な観光地を知っている人の割合	%	37.1 (H24)	50%以上 (H31)	H24	37.1	74.2%								
				H25	41.6	83.2%								
				H26	42.9	85.8%								
				H27	46.2	92.4%								
				H28	41.3	82.6%								
				H29										
				H30										
H31														

### 3 指標の達成状況

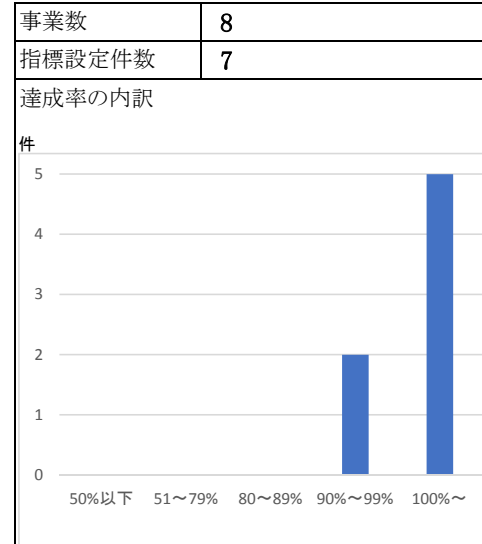
#### ① 市民協働によるおもてなし体制整備



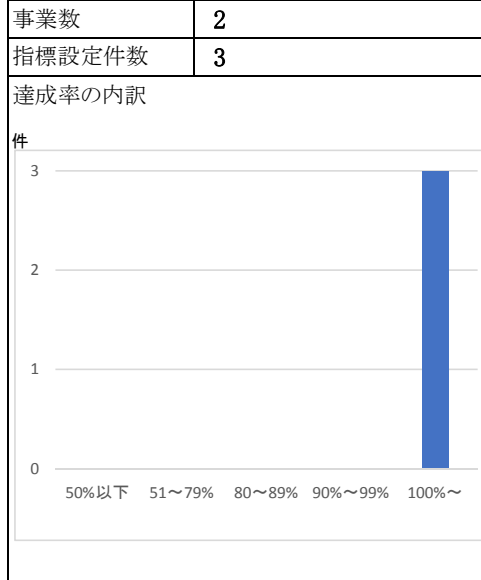
#### ② 観光メニューの開発



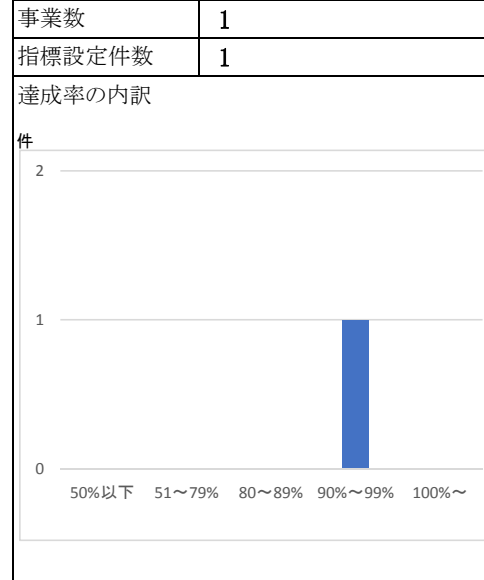
#### ③ 三原をPRする戦略的な情報発信



#### ④ 広域連携による誘客



#### ⑤ 瀬戸内三原 築城450年事業



### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

	引き続き、現状の取組を推進すべき
○	改善・見直しを行うべき

- ・築城450年事業については、終わった後、それぞれ生まれた事業が効果を下げることなく、官民で連携して継続して取り組むことが重要。
- ・KPIについて、「県内在住者」というのは良いと考えるが、50%の根拠が不明確。他市町と比較して多いのか少ないのかが分かるようにすべき。
- ・基本目標2の数値目標である「市外からの年間観光客数」を伸ばしていく上では、宿泊客数をKPIとしてはどうか。そして、それを増やしていくための事業を検討すべきではないか。
- ・交流人口拡大に向けては、広島空港の活用が重要。空港の民営化も進められている。時間がかかると思うので、この間に他都市の動きをよく見てほしい。他都市とも連携してほしい。国土交通省のHPなどで詳細のデータを見ることができるので、参考にしてほしい。
- ・三原に今ある資源をもう一度再点検し、活用方法を検討すべき。ゴルフ場(8つ)、竜王山からの景色、みはらし温泉など。
- ・ツーリングロード(ブルーライン)が須波港までできれば、須波から瀬戸田へ船で渡るといったルートも考えられる。
- ・三原単独で考える部分と、広域のエリアで考える部分とがある。
- ・ターゲットを絞ることが必要。どこから来てほしいのか、どういった年代の人なのか明確でないと、施策も漠然としてしまう。
- ・PR部分について、どうやって外部の人に伝えていくかについて、抜本的に考える必要があると思う。
- ・駅構内にワンストップの窓口があってもよい。
- ・外部からの視点も取り入れたシティプロモーションを推進すべき。

### 4 施策の総括

- ・本施策は、交流人口拡大への挑戦のなかでも、構成事業数が最も多く、数値目標である「市外からの年間観光客数」を増加させるために重要な施策ととらえている。
- ・施策のKPIについて、目標値の8割～9割程度達成できており、瀬戸内三原 築城450年事業を中心とした各種事業の推進効果が見られている。
- ・施策を構成する事業の7割以上は90%以上の指標達成率となっている。観光メニューの開発では一定の成果が見られているものの、①市民協働によるおもてなし体制整備及び③三原をPRする戦略的な情報発信については、それぞれ1事業ずつ実施内容を検討している事業があり、これらの推進を図ることが必要な状況となっている。

### 5 今後の方向性

- ・施策を構成する各事業について、引き続き、継続した取組を実施していくとともに、達成度が低い事業及び検討中の事業について重点的な取組を検討する。
- ・施策を構成する、①おもてなし体制整備、②観光メニューの開発、③三原をPRする戦略的な情報発信については、瀬戸内三原 築城450年事業終了後も本市の交流人口拡大に向けた基盤となるものと考えられることから、これらの事業について積極的に推進していく。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑤

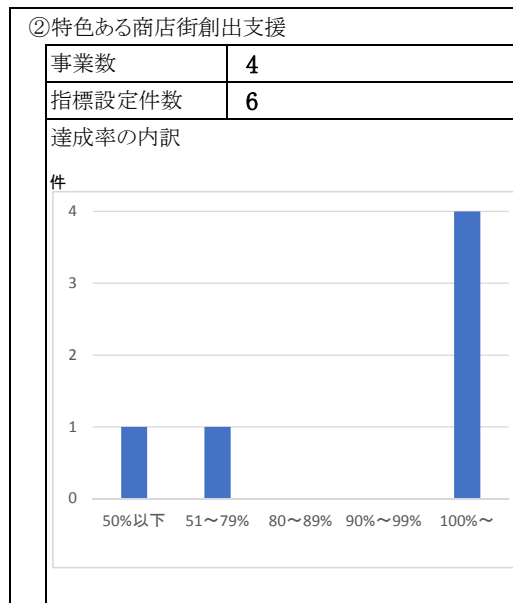
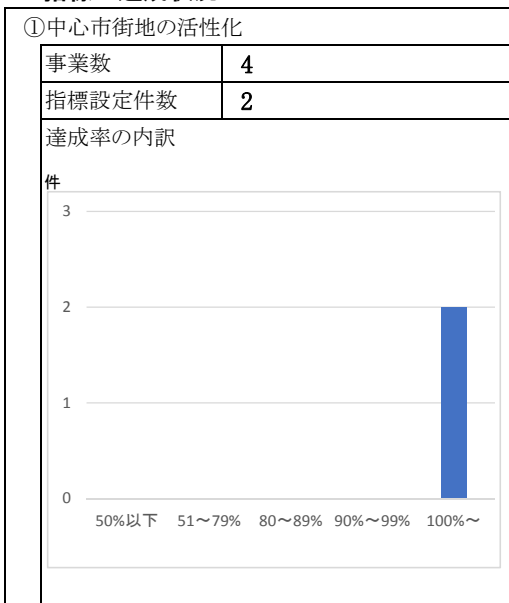
## 2 各施策の進捗状況

施策2	中心市街地の魅力向上
-----	------------

(%)

重要業績評価指標(KPI)		単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120
中心市街地歩行者・自転車通行量(休日・平日)16地点合計値	人/日	休日 14,175	休日 14,900	H26(休日)	14,175	—							
				H26(平日)	24,373	—							
		平日 24,373	平日 24,560	H27(休日)	15,645	105.0%							
				H27(平日)	22,874	93.1%							
		(H26)	(H32)	H28(休日)	16,628	111.6%							
				H28(平日)	21,656	88.2%							
中心市街地の小売業事業所数・年間商品販売額	事業所 百万円	事業所数 196	事業所数 200	H24(事業所数)	196	—							
				H24(販売額)	22,232	—							
		販売額 22,232	販売額 22,767	H27(事業所数)	223	113.8%							
				H27(販売額)	24,292	106.7%							
		(H24)	(H32)	H28(事業所数)	220	112.2%							
				H28(販売額)	22,930	100.7%							

## 3 指標の達成状況



#### 4 施策の総括

・施策のKPIである「中心市街地歩行者・自転車通行量」について、休日は目標値を達成できており、施策を構成する事業の推進等による効果がみられていると考えられるが、平日について通行量を増やす対策が必要な状況となっている。

・もう一つのKPIである「中心市街地の小売業事業所数・年間商品販売額」についても目標を達成できているものの、指標の達成に至っていない事業もあることから、こうした事業を重点的に推進していく。

#### 5 今後の方向性

・施策を構成する各事業について、引き続き、継続した取組を実施していくとともに、達成度が低い事業について重点的に取り組む。

・特に、「特色ある商店街創出支援」については、KPIの達成に向けて効果が高い取組であると考えられることから、積極的に推進することとする。

#### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

- 引き続き、現状の取組を推進すべき
- 改善・見直しを行うべき

・中心市街地の魅力向上を考えると、ランドデザインがまさにそのビジョンとなる重要なものになる。

・中心市街地の魅力向上に向けては、駅前にどのような施設が入るかが重要。ここがどうなるかによって、他の考え方も変わってくる。駅前開発を起点にしたものとするべきではないか。

・駅前の施設については、ランドデザインの考え方も完全に盛り込み、良いものを造ってほしい。変なものならはない方がいいくらい。

・KPIである「中心市街地の小売業事業所数・年間商品販売額」を上げていくためには、電子マネー活用事業が重要。国の交付金が活用できるうちにしっかり進めてほしい。

・起業・創業の支援については、現状の予算を上積みしなくても積極的に推進すべき。

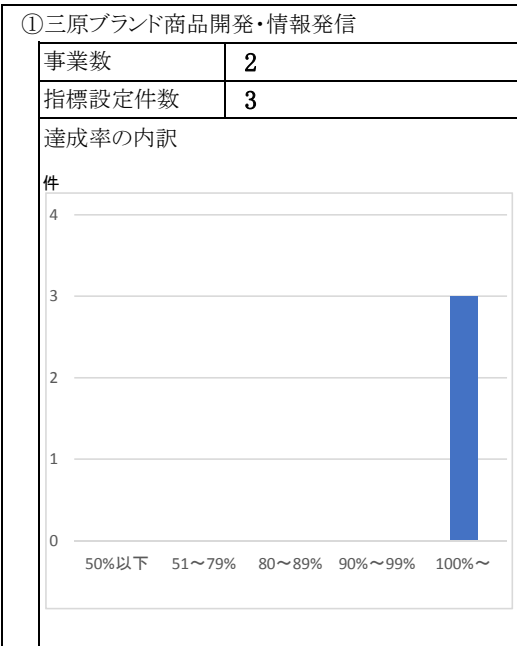


# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑥

## 2 各施策の進捗状況

施策3 地域資源を活用した「ふるさと名物(三原ブランド)」の発掘と販路拡大																(%)	
重要業績評価指標(KPI)		単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120				
観光消費額	百万円	8,057 (H25)	10,000 (H31)	H25	8,057	—											
				H26	6,893	68.9%											
				H27	8,293	82.9%											
				H28	8,561	85.6%											
				H29													
				H30													
				H31													

## 3 指標の達成状況



## 4 施策の総括

- ・施策のKPIである「観光消費額」について、増加傾向で推移しているものの、平成31年度の目標の達成に向けては、一段の積み増しが必要な状況となっている。
- ・施策を構成する事業の達成率は順調であることが施策のKPIの増加傾向に寄与していると考えられる一方で、目標を達成するためには、取組の拡充や新たな取組の検討が必要な状況と考えられる。

## 5 今後の方向性

- ・KPIの達成に向け、これまでの取組を引き続き実施するとともに、新規や拡充の取組について検討する。

## 6 まちづくり戦略検討会議の意見

引き続き、現状の取組を推進すべき

○ 改善・見直しを行うべき

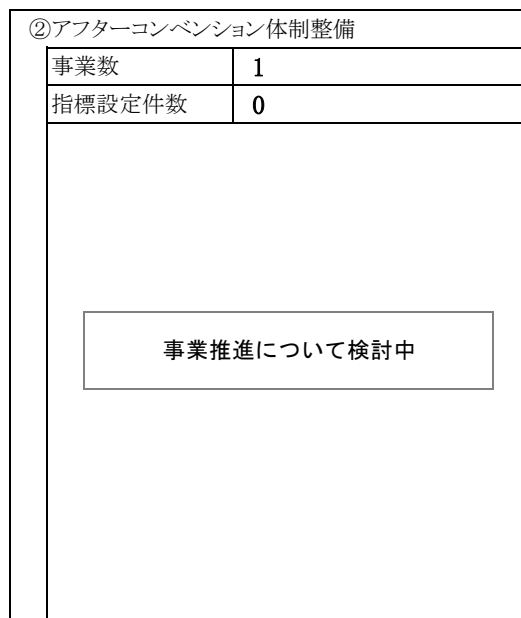
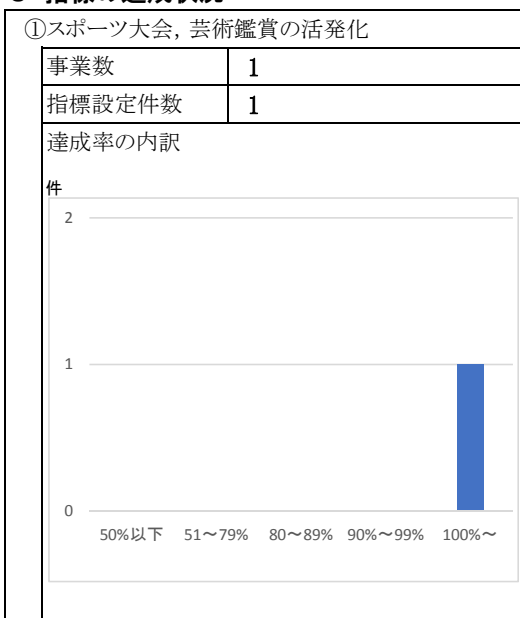
- ・三原ブランドは、タコ、酒、スイーツ以外にもあると思う。食に関しては、現在の取組で発信していけば良いと思うが、モノが作られて出ているということ「made in Mihara」ということを発信してはどうか。食に限らず、観光資源や産業など食プラスアルファで発信できることを考えてはどうか。
- ・観光消費額がKPIであるところはかなり無理があると思う。三原ブランドの開発・販売や6次産業化も重要であるし、観光消費額に関係がないとは言わないが、やはり観光消費額に一番効果があるのは宿泊客数であると思う。
- ・KPIについて、投資と効果がマッチしたものとなっていない。
- ・6次産業化における米粉の取組については、休耕田対策などに効果があると思われるし、需要が約2万トンあるうちの200トンを市内でまかなっており、伸びる余地がある取組であると思う。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑦

## 2 各施策の進捗状況

施策4 芸術鑑賞, スポーツ観戦など多様な誘客		(%)														
重要業績評価指標(KPI)		単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120			
市内における大規模スポーツ大会及びプロスポーツ興行への来場者数	人	6,100 (H25)	30,000 (H31)	H25	6,100	—										
				H26	14,536	48.5%										
				H27	10,964	36.5%										
				H28	13,187	44.0%										
				H29												
				H30												
				H31												

## 3 指標の達成状況



#### 4 施策の総括

- ・施策のKPIである「市内における大規模スポーツ大会及びプロスポーツ興行への来場者数」については、目標値の4割程度しか達成できておらず、施策を構成する事業内容やKPIの見直しが必要な状況となっている。
- ・「アフターコンベンション体制整備」を構成する事業については、取組が進んでいないことから、早急に事業推進を図ることが必要である。

#### 5 今後の方向性

- ・KPIの達成に向け、引き続き取組を推進するとともに、施策を構成する事業内容やKPIの見直しについて検討する。

#### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

- 引き続き、現状の取組を推進すべき
- 改善・見直しを行うべき

・森林公園は、自転車の協会の中でも有数のロードレース場として認識されている。今度、メキシコのチームも来るし、今ある施設を最大限活用する方策を考えるべき。特に自転車に関しては、もっとできることがあると思われる。

・ポポロの活用は欠かせない。施設内だけでなく、外の公園を含め、全体として考える必要がある。

・現在の取組の延長線上で考えても、KPIを達成できるほどの大きな来客は見込めないのではないかと。よほど大きく、新しいことをしなければ3万人の達成は難しいと考える。1万人くらいを一度に集めるくらいのイベントを考えてはどうか。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑧

## 基本目標3 子ども・子育て充実への挑戦

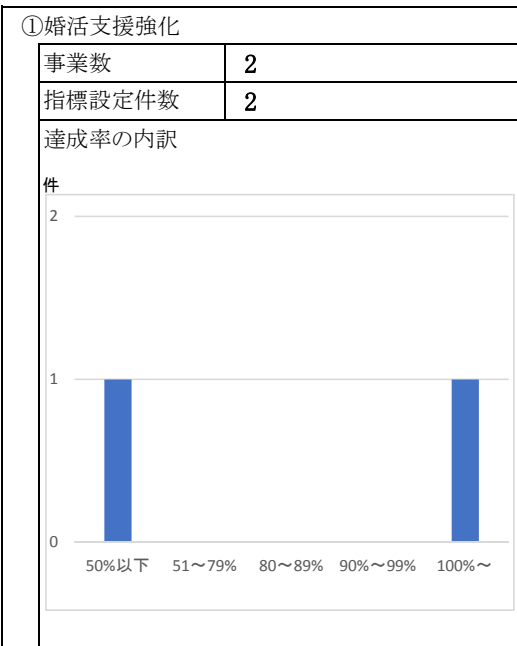
### 1 基本的方向及び数値目標の実績

基本的方向	数値目標	単位	基準値	期待値	年度	実績値	達成率	%							
								20	40	60	80	100	120		
子どもを生み育てやすい環境であるとともに、子ども達の確かな学力や心身の成長を促すことができる環境は、市の未来の担い手育成や暮らす場所としての魅力という点でも欠かせません。 そのため、男女の出会いから結婚、妊娠、出産、親子の健康、保育から学び、生活の支援、復職まで、子ども・子育て世代への支援の充実に挑戦します。	合計特殊出生率	—	1.56 (H22)	1.80 (H31)	H22	1.56	—								
					H23	1.52	84.4%								
					H24	1.50	83.3%								
					H25	1.60	88.9%								
					H26	1.43	79.4%								
					H27	1.50	83.3%								

### 2 各施策の進捗状況

施策1	男女の出会いから結婚までの支援	%													
重要業績評価指標(KPI)		単位	基準値	期待値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120		
婚姻件数		件	445 (H25)	上昇 (H31)	H25	445	—								
					H26	368	82.5%								
					H27	382	85.7%								

### 3 指標の達成状況



### 4 施策の総括

- ・施策のKPIである「婚姻件数」は、数値目標である「合計特殊出生率」の向上に向けても効果があると考えられることから、KPIの達成に向け、引き続き取組を進める必要がある。
- ・特に、指標が達成できていない事業について、重点的に取り組むとともに、新たな取組についても併せて検討する必要がある。

### 5 今後の方向性

- ・KPIの達成に向け、これまでの取組を引き続き実施するとともに、新規や拡充など、新たな取組について検討する。

### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

引き続き、現状の取組を推進すべき

○ 改善・見直しを行うべき

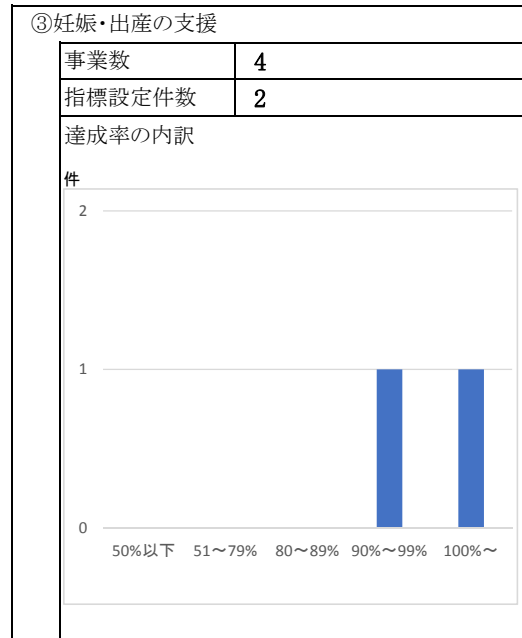
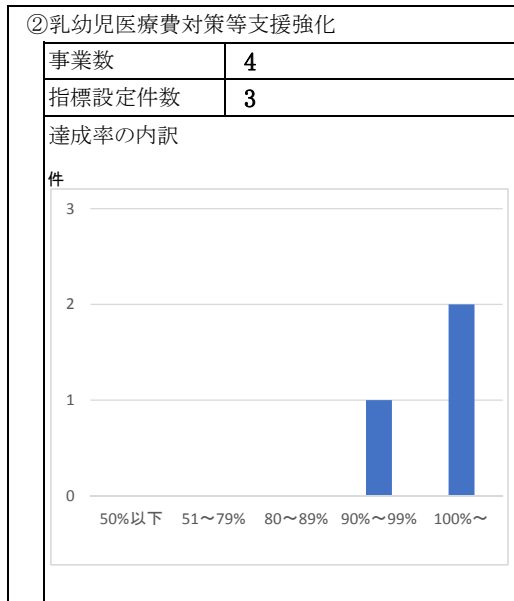
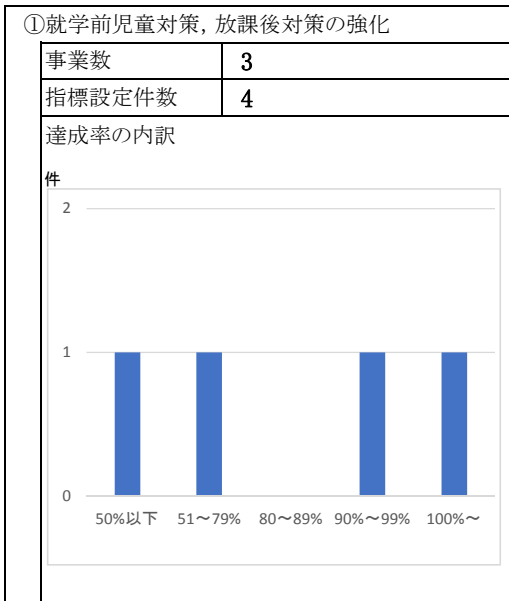
- ・市内の独身者数が県内で比較して多いのか、少ないのか、あるいは、若年層が結婚に対してどのような意識を持っているのかなど、市内の状況をよく把握する必要があるのではなか。そこから見出された課題に対する事業を実施していくべき。
- ・若い人たちが日常的に会える環境やデートするスポットを整備するなどの環境整備を中長期的にやっていくべき。
- ・環境整備に関する取組については、広域で実施することも効果的と考えられる。例えば、尾道市とは観光面で「るるぶ」を共同発行しているの、こうしたものを活用する方法も考えられる。
- ・出生率の上昇に対しては、行政としてできる環境整備を中長期的に実施していくしかないと思われる。その際、民間でできることは民間に任せて、民間の取組をサポートするような事業を実施すべき。(※特に、事業番号54 みはら縁結びサポーター養成事業については、民間に任せるべき。)

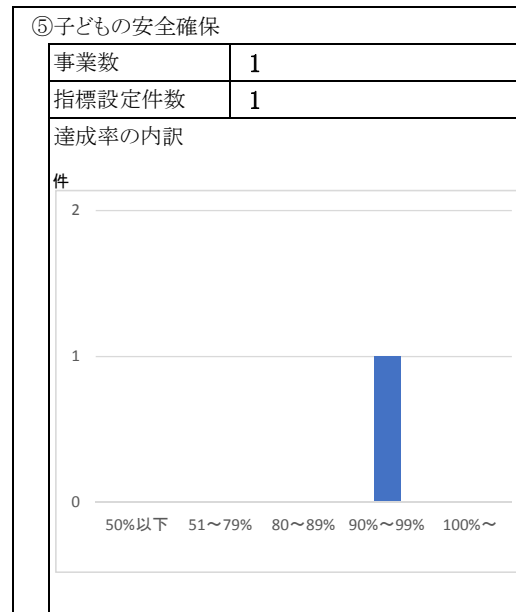
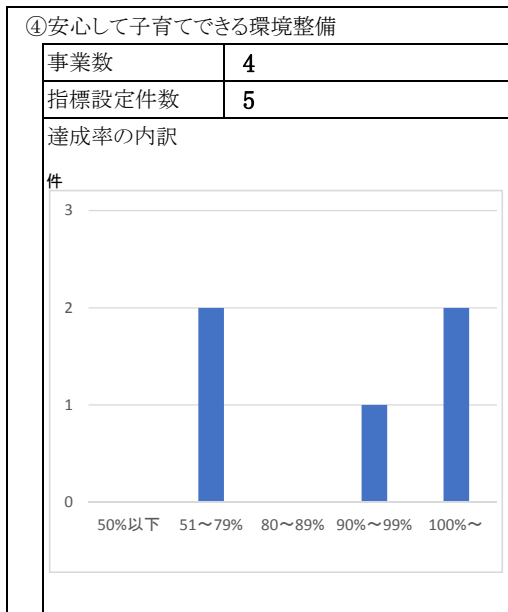
# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑨

## 2 各施策の進捗状況

施策2 三原で子育てしたい環境づくり													(%)
重要業績評価指標(KPI)		単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120
保育環境や子育て支援などが充実し、安心して子どもを育てることができると感じる市民の割合	%	65.6 (H25)	80.0 (H31)	H25	65.6	—							
				H28	65.8	82.3%							
				H29									
				H30									
				H31									

## 3 指標の達成状況





#### 4 施策の総括

・本施策は、子ども・子育て充実への挑戦のなかでも、構成事業数が最も多く、施策名でもある「三原で子育てしたい環境整備」が、数値目標である「合計特殊出生率」の向上に寄与するとの仮説のもとで事業を推進している。

・施策のKPIの達成率は8割程度であり、引き続き取組の推進が必要な状況となっている。

・施策を構成する事業のうち、約7割は90%以上の指標達成率となっているものの、達成率が79%以下の事業も4事業あることや検討中の事業も1事業あることから、これらの推進を図ることが必要な状況となっている。

#### 5 今後の方向性

・平成28年度に実施した、市民満足度調査によると、少子化への対応策としては、「子育てや教育にかかる経済的負担の軽減のための取組を充実させるべき」、「保育所などの子育て支援サービスを充実すべき」との意見が多くなっている。こうしたことから、施策を構成する事業は、いずれもKPIの向上に効果があるものと考えており、引き続き、継続した取組を実施していくとともに、達成度が低い事業及び検討中の事業について重点的な取組を検討する。

#### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

	引き続き、現状の取組を推進すべき
○	改善・見直しを行うべき

・さらに強化すべき施策であると考ええる。

・放課後児童クラブについて、全クラブを小学校6年生までに拡充すべき。また、空き校舎なども積極的に活用して拡充すべき。

・放課後児童クラブについて、1箇所あたり630万円／年、児童一人当たり16万円／年かかっているが、これが県内市町と比較して多いのか少ないのか、市としての特徴を把握しながら進める必要がある。

・事業番号60 子どもを産みやすい環境整備事業、及び事業番号64 周産期医療体制維持継続等支援事業に関して、根本的な問題として医師不足が挙げられる。これが現在の事業内容で解決するとは思えない。三原で分娩ができる体制の維持につながる事業を検討し実施すべき。中長期的になるかもしれないが、医師確保につながる取組を抜本的に検討すべき。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑩

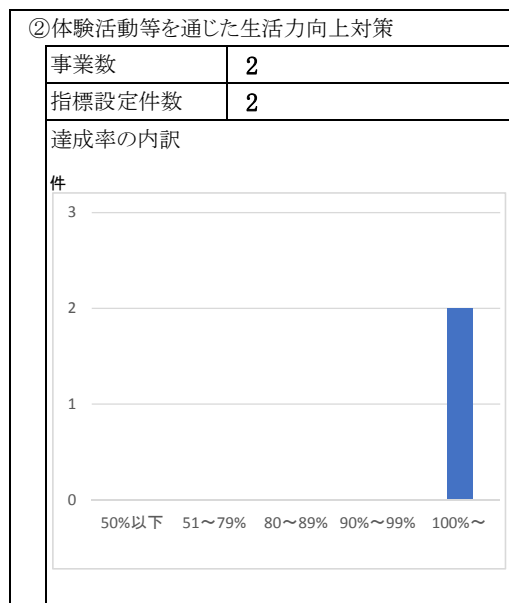
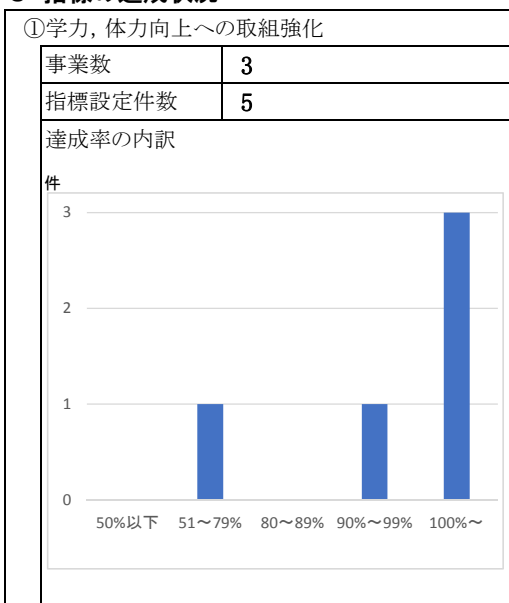
## 2 各施策の進捗状況

施策3 県内トップレベルの学力・体力の定着と生活力の向上

(%)

重要業績評価指標(KPI)				単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120			
「基礎・基本」定着状況調査の結果(市平均)が、県平均を上回る点数	点	小学5年 2.4  中学2年 1.8  (H25)  (H31)	H25(小学5年)	2.4	—													
			H25(中学2年)	1.8	—													
			H26(小学5年)	3.1	124.0%													
			H26(中学2年)	3.6	144.0%													
			H27(小学5年)	0.8	32.0%													
			H27(中学2年)	2.2	88.0%													
			H28(小学5年)	2.2	88.0%													
			H28(中学2年)	2.3	92.0%													
児童生徒の体力・運動能力状況(体力・運動能力の結果, 市の平均が県平均を上回る種目の割合)	%	76.0 (H25)  80 (H31)	H25	76.0	—													
			H26	73.6	92.0%													
			H27	72.9	91.1%													
			H28	84.7	105.9%													
「人の役に立つ人間になりたい」と思う生徒の割合	%	95.4 (H25)  97.0 (H31)	H25	95.4	—													
			H26	95.9	98.9%													
			H27	95.5	98.5%													
			H28	95.7	98.7%													

## 3 指標の達成状況



#### 4 施策の総括

- ・施策のKPIについては、いずれも8割～9割程度の達成率となっており順調に推移している。
- ・施策を構成する事業についても概ね順調に実施できている。

#### 5 今後の方向性

- ・引き続きKPIの達成をめざし、取組を継続する。

#### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

	引き続き、現状の取組を推進すべき
○	改善・見直しを行うべき
	・事業番号71 英語のコミュニケーション能力養成事業について、目標達成に向け、取組を強化すべき。
	・英検という資格取得にとどまらず、コミュニケーション能力を養うことにつながる取組を検討し実施すべき。
	・岡山県和気町での公営英語塾などの取組を参考に、地域での英語のコミュニケーション能力を養う取組を実施するなど、すべてがトップレベルとなるのは難しくとも、英語なら英語に特化して三原市の教育として特徴を出してはどうか。
	・三重県四日市市では、カリフォルニアにある町と姉妹都市提携を結び、職員が日常的に英語を話している。国際友好親善推進事業(事業番号37)などとも連携して取り組むべき。

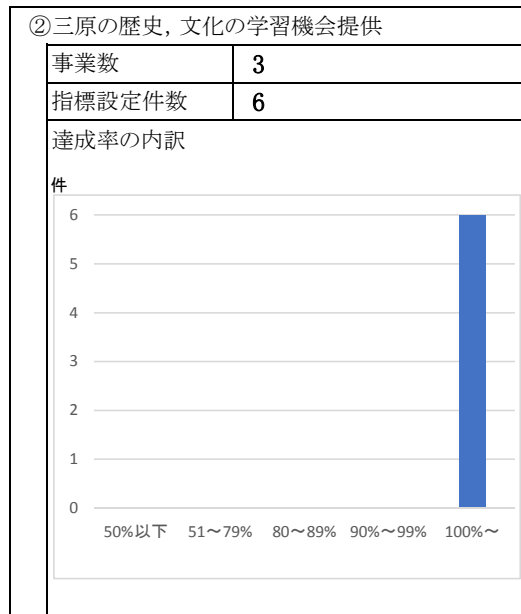
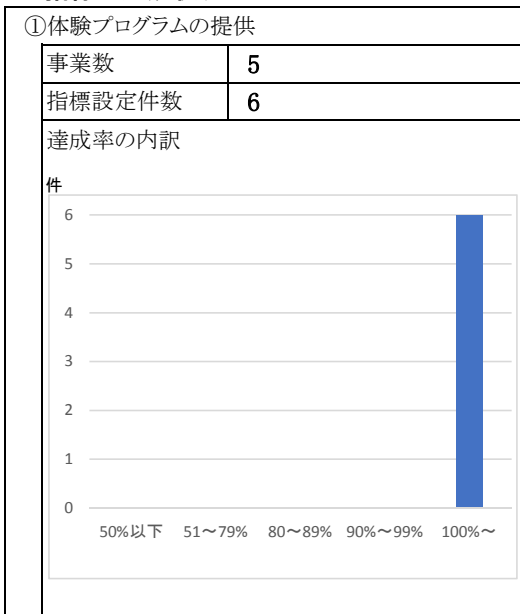


# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑪

## 2 各施策の進捗状況

施策4 子どもたちの三原への愛着醸成																		
重要業績評価指標(KPI)		単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120					
自分の住んでいる地域のことが好きな児童生徒の割合	%	小学生 93.6  中学生 80.6  (H27)	小学生 96  中学生 83  (H31)	H27(小学生)	93.6	—												
				H27(中学生)	80.6	—												
				H28(小学生)	90.8	94.6%												
				H28(中学生)	85.7	103.3%												
				H29(小学生)														
				H29(中学生)														
				H30(小学生)														
				H30(中学生)														
				H31(小学生)														
				H31(中学生)														

## 3 指標の達成状況



#### 4 施策の総括

- ・施策のKPIについて、概ね目標を達成できている。
- ・施策を構成する事業についても概ね順調に実施できている。

#### 5 今後の方向性

- ・引き続きKPIの達成をめざし、取組を継続する。

#### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

	引き続き、現状の取組を推進すべき
○	改善・見直しを行うべき
・基本的には、引き続き継続して各事業を推進すべき。	
・事業番号76 ふるさと子ども博士講座開催事業について、予算を増額してでも応募者全員が参加できるようにしてはどうか。	
・事業番号75 少年少女海外交流研修事業及び訪日交流事業については、国際友好親善推進事業(事業番号37)などとも連携して取組を推進すべき。(ニュージャージーランド パーマストンノース市と連携した事業)	
・事業番号76 ふるさと子ども博士講座開催事業については、将来的に三原で働くということを意識して、幅広い企業と連携を進めてほしい。	

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑫

## 基本目標4 市民の健康づくりへの挑戦

### 1 基本的方向及び数値目標の実績

基本的方向	数値目標	単位	基準値	目標値	年度	実績値		達成率 (%)							
						男	女	80	90	95	100	105			
ライフステージに応じた健康づくりを支援し、市民一人ひとりがいつまでも地域で暮らせるとともに、それぞれの目標に向けた生活が送れる土台となる、健康を実現できるまちづくりが必要です。そのため、健康づくりの成果をフィードバックするなど、個人個人の自覚を高め、地域全体で健康なまちづくりに挑戦します。	健康寿命	歳	男性 77.81 女性 83.79 (H22)	男性 78.81 女性 84.79 (H31)	H22	男	77.81	男	—						
						女	83.79	女	—						
					H23	男	77.61	男	98.5%						
						女	84.46	女	99.6%						
					H24	男	78.15	男	99.2%						
						女	84.10	女	99.2%						
					H25	男	78.80	男	100.0%						
						女	83.88	女	98.9%						
					H26	男	78.77	男	99.9%						
						女	84.40	女	99.5%						
					H27	男	79.00	男	100.2%						
						女	84.32	女	99.4%						

目盛り1刻み

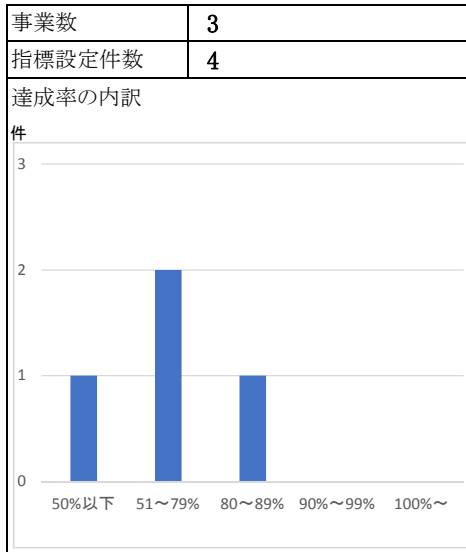
### 2 各施策の進捗状況

#### 施策1 健康を支える体制強化

重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	達成率 (%)					
市民が健康に関心を持ち、健康づくりに取り組むための行政サービスが充実していると感じる市民の割合	%	16.3 (H25)	上昇 (H31)	H25	16.3	—						
				H28	15.6	95.1%						

### 3 指標の達成状況

①健康づくりの機会創出のためのインセンティブ付与などによる取組強化



### 4 施策の総括

- ・数値目標である「健康寿命」の延伸に向け、施策のKPIである「市民が健康に関心を持ち、健康づくりに取り組むための行政サービスが充実していると感じる市民の割合」を伸ばすことにより、人口の自然減の抑制による人口減少に歯止めをかける取組を引き続き進める必要がある。
- ・指標の達成状況について、達成率の低い事業が多くなっており、これらの達成率を高めることが課題となっている。
- ・健康づくりの機会創出のためのインセンティブ付与としては、地域ポイント(三原うきしるポイント)を活用することが考えられ、市民の行動変容につながる取組を展開することが必要となっている。

### 5 今後の方向性

- ・人口の自然減の抑制による人口減少対策として、健康寿命を延伸させる取組を引き続き推進する。
- ・指標の達成率が低い事業の達成率を高めることを中心に進める。
- ・健康づくりの機会創出に向けたインセンティブの付与については、国においてもその有効性がガイドラインにより示されているところである。市民の行動変容を促すため、活動をはじめのきっかけとして、また、活動を発展的に継続させる手段として、地域ポイントを活用した健康づくりの取組を検討する。

### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

- 引き続き、現状の取組を推進すべき
- 改善・見直しを行うべき
- ・行政サービスの充実というKPIに対して、インセンティブ付与が直接の手段としてふさわしいかについてやや疑問がある。
  - ・健康を市民が身近に感じて、手軽に実施できるような取組を行うべき。
  - ・禁煙治療者支援事業及び地域ポイント活用事業について、早急に具体策を検討すべき。
  - ・県の健康づくりに関する取組をしっかりと研究し、市としての位置付けを整理すべき。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑬

## 2 各施策の進捗状況

施策2 定期的な運動習慣の定着		(%)														
重要業績評価指標(KPI)		単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120			
週に1回以上、運動やスポーツを行った市民の割合	%	40.1 (H18)	65 (H31)	H18	40.1	—										
				H28	44.6	68.6%										
				H29												
				H30												
				H31												

## 3 指標の達成状況

①スポーツ・運動機会の創出, 参加促進	
事業数	2
指標設定件数	0
達成率の内訳	
指標について検討中	

②歩きたくなる歩行空間の整備促進	
事業数	1
指標設定件数	0
達成率の内訳	
指標について検討中	

#### 4 施策の総括

・指標の設定について早急に検討する必要があるが、事業の実施内容をみると、三原テレビ放送網や県立広島大学など民間主導による協議体も立ち上がり、ICTを活用した健康づくりの取組が展開されるなど、新しい取組が市内で生まれている。

・市と金融機関との協定により、健康づくりをサポートする新たな金融商品の販売も開始され、これまでアプローチできていなかった企業の従業員とその家族を対象とした取組も少しずつ生まれている。

・平成29年3月から開始された「ひろしまヘルスケアポイント事業」について本市の地域ポイント事業との違いを整理しながら進める必要がある。

#### 5 今後の方向性

・指標の設定について早急に検討し、引き続き多様な団体との連携により、市民の定期的な運動習慣の定着に向けた取組を進める。

・広島県により取組が進められている「ひろしまヘルスケアポイント事業」と、本市における地域ポイント事業との役割分担を整理し、市民の運動機会の創出・参加促進に向けた取組について検討する。

・歩きたくなる歩行空間の整備促進について、関係課との連携により、具体的な事業実施に向けた検討を行う。

#### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

○ 引き続き、現状の取組を推進すべき

改善・見直しを行うべき

・具体的な性別や年代によって取るべき施策が異なっていると思われる。それらを把握した上で、事業を組み立てることが効果的だと考える。

・ウォーキングのまち三原として動くのであれば、どこを歩いたら良いのかを明確にし、歩きたくなるようなコースづくりが必要。

・特にランニング者に対して、どこからどこまで走れば何キロという形で、看板などで示し、走る者をかき立てるような仕掛けが必要。楽しめるような工夫が必要。楽しむことが継続につながる。

・無理なく週に1回くらいできるような形のもので、身近な中で何通りかのコースを提示してもらえるよう応用してもらえるとありがたい。

・今回、青山学院大学の原監督をふるさと大使に任命された。これを活かして、例えば佐木島を舞台に、原監督に監修していただいたトライアスロンの専用コースを作ってみてはどうか。

・セミナーハウスを合宿所にし、全国の大学から合宿を誘致すれば、市民の健康づくりにもつながる取組ができるのではないかと。

・観光協会が三原サイクリングマップを作成しているが、こうしたものを保健福祉課やスポーツ振興課などと連携して作ってはどうか。

・地域ごとに3キロぐらい歩けるコースが必要ではないかと思う。

・地域でコースを設定し、照明も交えたコースを整備しないと、単にマップを作っただけではダメ。地域で実際にコースを作って、危険な箇所に対応することが必要。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑭

## 2 各施策の進捗状況

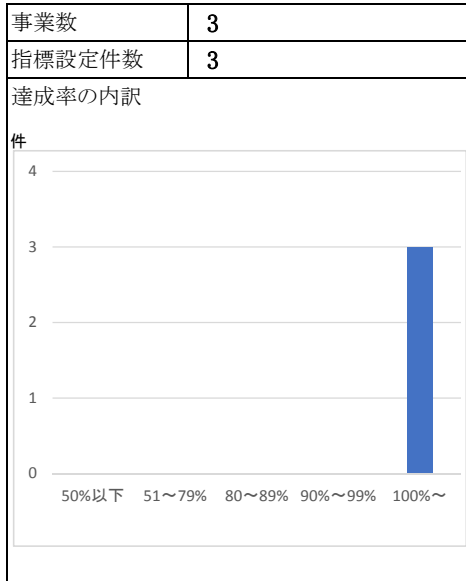
施策3 高齢者の健康づくり

(%)

重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120
介護や支援を必要としない高齢者の割合	%	79.0 (H25)	維持 (H31)	H25	79.0	—						
				H26	79.4	100.4%						
				H27	79.8	100.9%						
				H28	80.2	101.4%						
生きがいを持って暮らしていると感じる高齢者の割合	%	79.1 (H26)	上昇 (H31)	H26	79.1	—						
				H28	60.5	76.4%						

## 3 指標の達成状況

①外出、交流機会の拡大



## 4 施策の総括

- ・高齢化が進む中にあっても、高齢者の健康づくり施策に取り組むことにより、KPIである「介護や支援を必要としない高齢者の割合」を維持し、「生きがいをもって暮らしていると感じる高齢者の割合」を上昇させる。このKPIの達成に向けた取組を引き続き進める必要がある。
- ・指標が達成できたものが3件ある一方で、平成29年度事業において指標の測定を検討しているものもあり、これらについて事業効果を測る仕組みづくりが必要である。

## 5 今後の方向性

- ・指標が達成できている事業は引き続き継続して事業に取り組むこととし、平成29年度事業において指標の測定を検討しているものについて、検討を進める。
- ・高齢者の健康づくりに総合的に取り組む事業である「生涯活躍のまち推進事業」について、国における地方創生推進交付金を活用して事業を実施する。

## 6 まちづくり戦略検討会議の意見

- 引き続き、現状の取組を推進すべき  
改善・見直しを行うべき
- ・高齢者の健康づくりは、地域との連携がますます重要になってくると思う。例えばサロンなどで、地域によってサービス提供できる内容に差が出ているようだ。こうした地域間の格差をなくすような取組も必要と感じている。
- ・健康寿命の延伸が大変重要。継続が大事。県大の先生の話を聞いたところによると、今後、認知症の発症率が上がると言われている。頭を使ったり、身体を動かしたりすると改善するとされている。
- ・100歳体操もやっているようであるが、これをやれば認知症にならないというものを多くの人が参加でき、継続しやすい仕組みづくりに取り組む必要がある。
- ・サービスに偏りがなく、社会福祉協議会や地域などと連携状況を確認しながら推進する必要があるのではないか。

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑮

## 基本目標5 住み良さ向上への挑戦

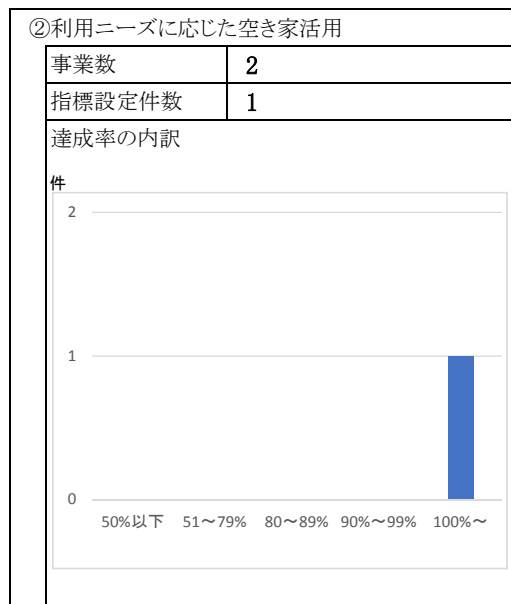
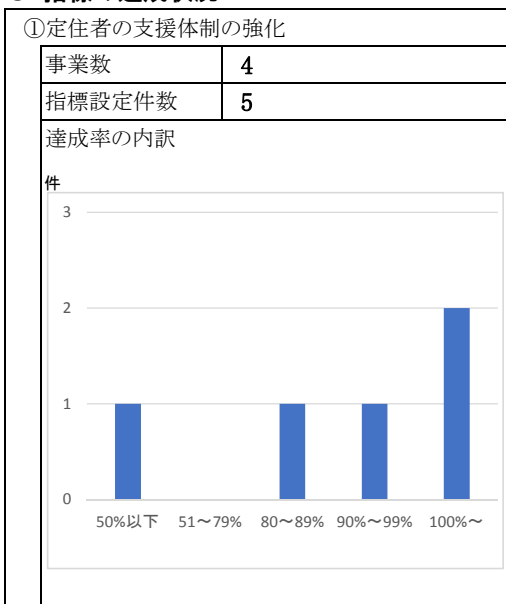
### 1 基本的方向及び数値目標の実績

基本的方向	数値目標	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	%							
								60	80	100	120	140	160		
市外から働きに来ている人へ定住を促す取組に加え、移住の希望を持っている三大都市圏を中心とした住民の希望を実現する取組が効果的であると考えられます。 さらに、近隣の自治体と連携し、圏域において必要な生活機能の確保や人口の定住促進、都市機能の集積・強化などを図ることにより、圏域からの人口流出を食い止める「ダム機能」を形成することが必要です。 そのため、防災や環境などの生活・都市基盤整備や市民が活動しやすい環境づくり等を通じ、市民が住み続けたいと感じ、定住の場所として選ばれるまちづくりに挑戦します。	社会移動(転出・転入)による人口変動	人	▲394 (H25)	減少数を抑制 (H31)	H25	▲394	—								
					H26	▲274	143.4%								
					H27	▲201	195.5%								
					H28	▲298	131.9%								
					H29										
					H30										
					H31										

### 2 各施策の進捗状況

施策1	戦略的な定住促進対策				%											
重要業績評価指標(KPI)					単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120
定住窓口を利用して市外から移住を決めた世帯	世帯	6 (H25)	25 (H31)	H25	6	—										
				H26	10	40.0%										
				H27	13	52.0%										
				H28	9	36.0%										
				H31												

### 3 指標の達成状況



#### 4 施策の総括

- ・数値目標である「社会移動(転出・転入)による人口変動」の減少率抑制に向け、引き続き、定住の場所として選ばれるまちとなるよう取組を進める必要がある。
- ・指標のKPIの達成状況が3割～5割程度と低迷しており、この達成に向けた取組を行う必要がある。
- ・特に、市外からの通勤者に対する定住促進事業(事業番号87)、ファーストマイホーム応援事業(事業番号89)及び空き家活用検討事業(事業番号91)について、具体的な取組を進めていく必要がある。

#### 5 今後の方向性

- ・数値目標及びKPIの達成に向け、定住促進に係る①空き家を活用した取組の展開、②市外からの通勤者にターゲットを絞った取組、③定住支援体制の整備の観点から取組を進めることとする。
- ・平成28年度に検討を進めた結果、市外からの通勤者に対する定住促進事業(事業番号87)については、市外から移住してきた若年層や子育て世帯への家賃補助制度を創設するとともに、空き家活用検討事業(事業番号91)については、学生向けシェアハウスの設置補助事業に取り組むこととする。
- ・また、ファーストマイホーム応援事業(事業番号89)についても具体的な取組内容を検討する。

#### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

○	引き続き、現状の取組を推進すべき
	改善・見直しを行うべき
	・市職員ですら市内に住めない理由を把握してみては、 ・まずは市職員から市内居住を進めるべきではないか。  ・市外の人が三原に住むことを考えたときに、ピンポイントで三原を選ぶよりは、近隣との比較の中で、何らかの魅力を感じて住むことになると思う。他都市も同様に、全国で人口増加に向けた取組が行われている中で、優位性があるかないか、特徴があるかどうか、というところが重要。そのなかで、勝つ部分、飛び出ている部分がないと、「三原でなくても」となってしまう。安全や交通の利便性が高い、災害が少ないという地域は全国にもそれなりにあると思うので、その中から選んでもらうということを考えると、何らかの特徴あるものをピックアップしてそこに焦点を当てて取り組むことも必要。  ・このまちがどうあるべきかということを考えたとき、ビジネスが過去の50年と今後の50年では変わる。三菱にしても昔は作業の方が多くいたが、そうした人たちは別のところへ行った。産業が分断されているため、昔のように戻らない。今後の数十年を考えると、違ったサービスの方が伸びていく。観光産業などは今後、まだまだ延びると思われる。  ・三原市は国際空港を有している。日本の治安を考えるとインバウンドもまだ増えると考えられる。そうするとJRと空港などの連携により、産業構造が変わるはずだ。空港と新幹線とを結ぶビジネスは可能性があるのではないか。空港の民営化についてもぜひやるべき。市中心部のグランドデザインがその象徴になるのではないか。



# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑩

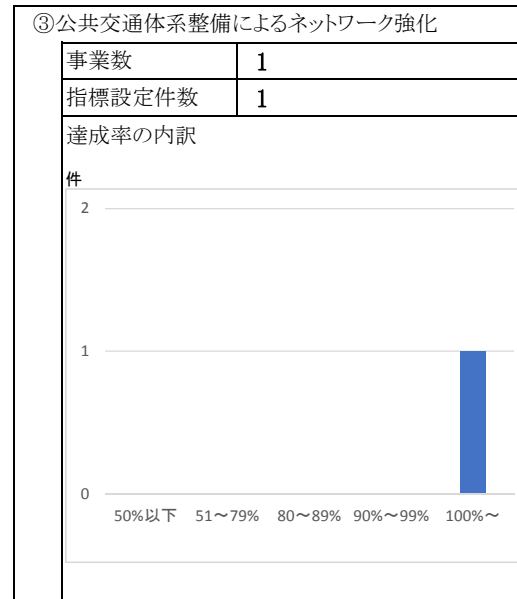
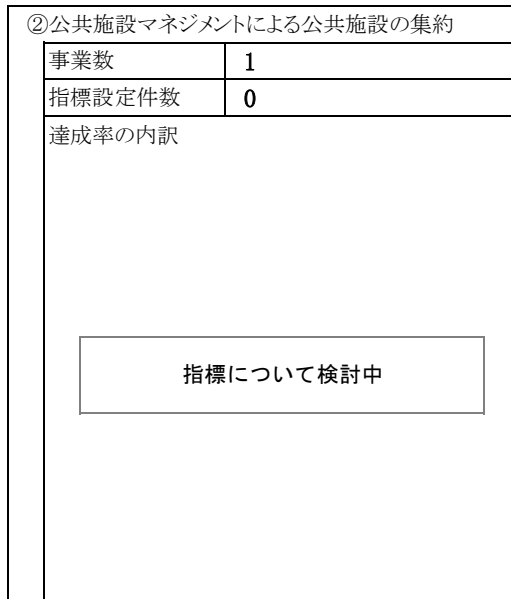
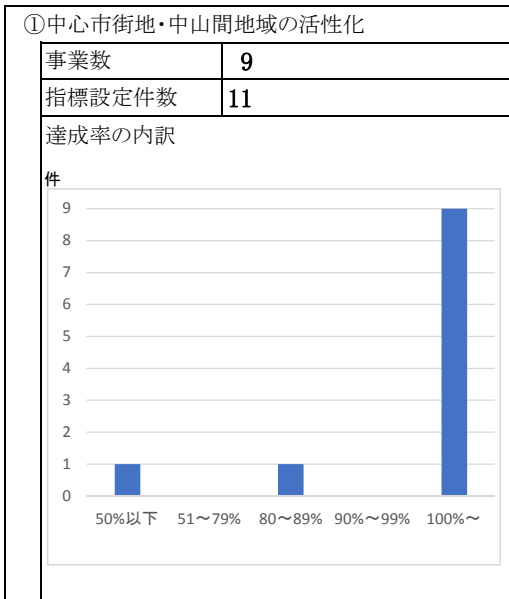
## 2 各施策の進捗状況

施策2 将来を見据えたまちづくりの推進

(%)

重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	達成率 (%)					
							20	40	60	80	100	120
「住み続けたい」と感じる市民の割合	%	47.3 (H25)	51%以上 (H31)	H25	47.3	—						
				H28	43.5	85.3%						
				H29								
				H30								
				H31								

## 3 指標の達成状況



#### ④市民協働のまちづくりの取組強化

事業数	3
指標設定件数	4
達成率の内訳	

#### 4 施策の総括

- ・数値目標である「社会移動(転出・転入)による人口変動」の減少率抑制に向け、引き続き、市民が住み続けたと感じるまちづくりを進める必要がある。
- ・指標のKPIが基準値より3.8ポイント下落しており、達成に向け取組を強化する必要がある。

#### 5 今後の方向性

- ・KPIの達成に向け、中心市街地・中山間地域の活性化では、都市計画マスタープランや立地適正化計画など、持続可能な地域のあり方について計画策定を進めるとともに、中心市街地活性化基本計画に基づくにぎわい創出事業、市中心部のランドデザイン整備事業で将来に向けた市中心部のビジョンづくりに取り組んでいる。また、中山間地域についても、引き続き、地域おこし協力隊の配置を進めるとともに、地域支援員についても配置地域を見直し、支援員を増員させることで、より地域に寄り添った仕組みとして制度を改め取組を進めることとする。
- ・一方、地域の足として公共交通体系整備によるネットワークの強化についても引き続き取り組むとともに、公共施設マネジメントについても、少子高齢化や社会構造の変化を踏まえた公共施設のあり方について検討し、施設の集約化に取り組むこととする。

#### 6 まちづくり戦略検討会議の意見

○	引き続き、現状の取組を推進すべき
	改善・見直しを行うべき
<p>・この施策では、社会増をめざしているため、三原市の特徴をもってアピールすべきで、メリハリをつけて集中と選択でやっていくべき。</p> <p>・ターゲットとして、企業誘致や労働者を中心に集めるのか、それとも高齢化が進むことからシニア世代に特化するのか、一番のターゲットを定め、そこに向けて進めていくことが必要ではないか。</p> <p>・市民満足度調査でも40歳以上は「住み続けたい」が80%を超えている。そういう世代には下地ができていないのかもしれない。となると、一線をリタイアした人たちも一度住んでみたいと思わせるような施策を打ってみるなど、選択と集中をしっかりとやるなかで取り組んでもらいたい。</p> <p>・人口増加に向けては、経済がないと人は増えない。国が進めている地域未来投資促進法を活用すべきでないか。三原市の特徴を活かせるものをすべき。よそと同じことをしても仕方がない。そういう意味では、空港を有効に活用すべき。</p> <p>・JRや空港も人口が減ると困る企業の一つ。観光と人をいかに連れてくるかを考えるべき。</p> <p>・平成29年8月経済産業省地域経済産業グループが出している資料には、どういうことをするとどれくらいの人がかかるかという分析も出されているため参考してほしい。</p> <p>・地域ごとの要望や満足度をとらえて進めるべき。</p> <p>・公共施設マネジメントの行く末は、市民の住み良さに直結する。施設の閉鎖や小学校の閉校などの影響が今後出てくると思われる。これら市民の不安や不満への対策を丁寧に進めてほしい。</p>	

# 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策検証シート⑰

## 2 各施策の進捗状況

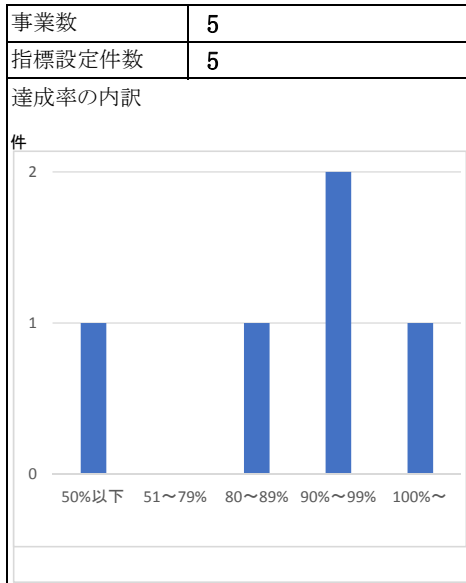
施策3	防災対策と快適な生活環境の整備
-----	-----------------

(%)

重要業績評価指標(KPI)	単位	基準値	目標値	年度	実績値	達成率	20	40	60	80	100	120		
防災のための施設や情報、活動体制が充実していると感じる市民の割合	%	14.9 (H25)	上昇 (H31)	H25	14.9	—								
				H28	14.9	99.3%								
				H29										
				H30										
				H31										

## 3 指標の達成状況

### ①災害に強いまちの実現



## 4 施策の総括

- ・本施策は、数値目標である「社会移動(転出・転入)による人口変動」の減少率抑制に向け、市民が住み続けたと感じるまちづくりにつながる取組として位置付けている。
- ・指標のKPIの上昇を図るとともに、達成率の低い事業を中心に取組を進める必要がある。

## 5 今後の方向性

- ・達成率の低い事業としては、防災啓発事業(事業番号104)における土砂災害ハザードマップの作成に関する取組が挙げられるが、これは、広島県が実施する土砂災害警戒区域等の調査が遅れたため、この調査結果に基づくマップの作成も遅れたためであり、引き続き県と連携しながら取組を進めていくこととする。
- ・上記のほか、自主防災組織や消防団活動も活性化を図るとともに、新たな災害時の一斉情報伝達手段としても活用できるコミュニティFMについて、平成29年度秋の放送開始に向け、準備を進める。
- ・災害に強いまちづくりは、企業誘致などの面でも市の特長として打ち出せるため、引き続き取組を進めていく。

## 6 まちづくり戦略検討会議の意見

- 引き続き、現状の取組を推進すべき
- 改善・見直しを行うべき
- ・KPIについて、三原市では地域ごとに災害への危険度が違っていると思われる。沿岸部、山間部、市街地部分などそれぞれで想定される災害も違う。そうしたときに、各地域において想定される災害には100%対応することが必要で、満足度の14.9%が上がったからOKではないのではないか。
- ・場所によって危険度は違う。例えば危険箇所数などを定量的に示すことで、どの程度安全なのかということを出した方がよいのではないか。
- ・市民満足度の中には、普段実感としてあまり意識していないのではないか。
- ・子どもを含めた教育の中でも防災について考える機会を設定すべきではないか。